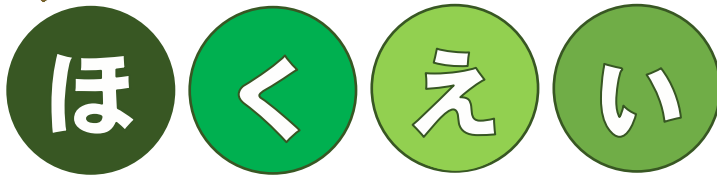




帯広市立北栄小学校 学校便り 12号



家庭や地域と共にある学校～共育(きょういく)～

《めざす子ども像》

- ▶ 自らすすんで学ぶ子ども
- ▶ 互いを認め合い自分と相手を大切にできる子ども
- ▶ 健康や安全に気を付ける子ども

令和6年10月11日 発行者 柴山 敬

<http://www.hokuei.obihiro.ed.jp/>

子供の主体性を育むために
2学期からの3つのキーワード

今年度の教育の重点は「家庭と連携して子供の『責任』の意識を育むとともに、意思決定して行動する姿勢を育てる」です。学校便り4号と11号で紹介しましたが、物事に対して当事者意識をもち、主体的に取り組める子供の育成を目標としながら「試み」「挑戦」「達成感」の各段階での活動や取組を進めています。

2学期の始業式には、子供たちと職員で次の3つのキーワードを確認しました。

《3つのキーワード》

- ① 「『よしっ!』というつぶやき」
- ② 「なぜ? どうして?」
- ③ 「自分ならどうする?」

① 「『よしっ!』というつぶやき」

様々な体験や経験を通じて、成功体験を重ねていくことは、自尊感情や自己肯定感を高め、新たなことにも取り組もうとする意欲を高めます。とりわけ規則正しい生活習慣を確立させたり、手伝いなど家での役割をもたせたりすることは重要で、子供が自分の意志で行動できるようになることが望ましいです。

子供が「『よしっ!』というつぶやき」をきっかけに、「一歩踏み出し行動する」ことができるように促すこと。学習の場面でも自分の学習だという意識をもって取り組むことにつながります。

うまくできる時、うまくできないときもあると思いますが、「やりたくない気持ちに打ち勝てた」「〇〇ができた」ことを認め、ほめながら成功体験を積み上げていきましょう。

② 「なぜ? どうして?」

「なぜ? どうして?」は、多くの体験や経験、学びを経て生じてくるものです。



本校では今年度の校内研究主題を「自分らしさを生かし、ともに学ぼうとする子どもの育成」と設定し、子供が「解決したい」と思う課題に取り組むことのできる場面を授業に取り入れることを試みています。個別の学びや協働による学びを一体的に進める中で、子供たちに「なぜ? どうして?」から「調べてみたい」「実現してみたい」という意欲を引き出せるようにしていきます。

子供の「なぜ? どうして?」を引き出すために、家庭においても対話や読書、様々な体験の場を大切にしていきたいと思います。

③ 「自分ならどうする?」

授業はもとより、学級や学校の行事では、どの子供も当事者意識をもってかかわることが大切です。物事に対して子供が自身に問いかけ、自分が出した考えと他者の考えを比較したり、合わせたりして、よりよい結論を導き出すことは、これからの時代に求められる力になります。

子供が「自分ならどうする?」と当事者意識をもって考え、必要な場面では「一歩踏み出し行動する」ことができるよう、学校でも家庭でも様々な機会を活用して取り組んでいきましょう。

地域ぐるみで子供を育てる 学校を支えてくださる方々

8月・9月に学校支援ボランティアとして浦端昭雄さんが花壇の手入れをしてくださいました。また、4月から学校支援地域本部コーディネーターとして仕事をいただいている我妻泉さんが2年生の事業所訪問の連絡調整をしてくださいました。本校の教育活動をご支援いただき、ありがとうございました。

ボランティアで美しい花壇に

8月、9月はグラウンドをはじめ、校舎敷地内の草の伸びが著しく、その対応に追われていました。花壇も同様、株と株の間や周辺に背丈の高い草や低い草が生い茂り、中には深く根を張って取りにくいものもありました。



今年の春、「花*花プロジェクト」として花壇の苗植えや維持管理のお手伝いいただく方を募集したところ、帯広市の地域交流サロンに参加している浦端さんがボランティアに申し出てくださいました。浦端さんは真夏の暑い時間を避け、夕方に数回にわたって草取りをしてくださいました。自宅から大きなビニール袋を持参し、抜いた草をその中へ。「家で堆肥を作っているから利用させてもらうよ。」「自分のペースで好きなように作業するから気にしないで・・・。」と話してくださいました。きれいな花壇にしてください、本当に感謝しています。



訪問先の事業所をコーディネート

今年度から我妻さんが本校の学校支援地域本部コーディネーターとして業務に当たってくれています。我妻さんは6月に実施した「ファン・ランニング」や、7月の「学習スタジアム」の運営を補助してくれました。今回は2年生の事業所訪問のコーディネートです。



例年、訪問する事業所との調整は学級担任が行っており、授業の合間や放課後など限られた時間に電話をしなければなりませんでした。我妻さんのおかげで児童への指導や授業の準備などに専念できるようになりました。



こうした地域学校協働活動の期待できる成果として、子どもの学習に対する興味・関心や意欲の向上をはじめ、コミュニケーション力の向上、教員が子供と向き合う時間の確保などがあります。今後も我妻さんの活躍を期待しています！

